

えいりおいわけどうひょう
絵入追分道標

- ◇ 指定日 昭和54年7月24日
- ◇ 所在地 田代
- ◇ 所有者 個人

石碑には供養塔や信仰に関するものなど多くの種類がありますが、道案内のために建てられた石碑は「道標」または「道しるべ」といわれます。

かつて、石碑の近くを通る道は「中北道」または「岩泉街道」と呼ばれ、江戸時代に代官所のあった宮古村黒田から山口村を経て、近内村蜂ヶ沢から雄又峠を越えて田代村に出ました。石碑のある繋ヶ沢から右に進むと末前を経て岩泉に通じ、宮古から約50kmの道のりでした。

江戸時代には文字の読めない人も多かったことから、絵によって「刀」で大道（岩泉方面）、「鎌」で山道を示す配慮がなされています。

道標の中でも絵を用いて行き先を表現する絵入道標は、当地方でも例が少なく貴重な石碑のひとつです。



高さ 75cm 幅 61cm 厚さ 20cm



石碑拓本